

令和4年度 第4回 藤沢市立善行学校 学校運営協議会会議録

開催日時 2022年11月29日（火）10時～12時10分  
場 所 善行中学校 会議室

出席委員	<p>亀谷 亀雄（会長・善行地区自治会連合会副会長） 高森 保明（副会長・校長） 齊藤 正枝（善行三者ふれあいネットワーク会長・善行地区青少年育成協力会会長） 人見 甲子郎（NPO 法人森の仔じゅうがっこう事務局長） 山田 大（教頭） 高塚 朝未（生徒支援担当教諭）</p> <p>【欠席】 植木 春雄（善行地区自治会連合会会長） 木村 徹（善行市民センター センター長・善行公民館 館長） 諏訪 理恵（善行中学校PTA会長） 松本 美由紀（社会福祉協議会（CSW））</p> <p>※個人情報を取り扱う内容により、非公開で開催</p>
次第	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 不登校に関する理解を深める勉強会</li><li>2. 学校運営や生徒を取り巻く現状、課題についての協議</li></ol>
協議内容	<p>最近の学校の様子を学校長より説明 &lt;校長&gt; 三行詩の表彰、学校行事、新生徒会本部の発足など2年生が学校の中心となって活躍している。少しずつコロナ前の活動を取り戻しつつあるが、市内小中学校で学級閉鎖が何校か発生しており、まだまだ油断できない状況は続いている。</p> <p>1. 不登校に関する理解を深める勉強会 &lt;会長&gt; 本日は今年度の大きなテーマとして取り組んできた「不登校」についての勉強会が第1部として企画されています。残念ながら欠席委員が多くなっていますが、不登校について理解を深めるよい機会だと考えます。 その後、第1部に引き続いて、様々な課題について協議したいと考えています。 【不登校に関する理解を深める勉強会】 &lt;人見委員&gt; 「森の仔じゅうがっこう」の取組についての説明。自然の中の体験活動を通してエネルギーを高め、出来ることを増やし、自己肯定感・自己有用感を高めている。 「森の仔じゅうがっこう」としては不登校・引きこもりを氷山の一角と捉えている。見えている現象だけを解消しようとしても、問題は解決しない。養育環境、</p>

愛着を一番の問題と考えている。保護者にとってはつらい現実を突きつけられることになるが、そこを避けては根本的な解決には至らない。ただし、すべて家庭に原因を押しつけるのではなく、そこを受け入れた上で一緒に問題を解決していく。

発達の偏り（発達障害も含む）も大きな要因。様々な要素があり、ストレス耐性が弱く、こだわりが強く一事が万事と決めつけてしまう個人の特性なども関係している。

養育環境も大きな要因、夫婦不和、虐待、ネグレクト、一人親、ワンオペ、過保護、過干渉、不安定な愛着形成、生活困窮等、様々な要素がある。

ストレス環境について。社会的スキルの未発達・欠如、対人関係スキル、コミュニケーションスキル、経験不足等が影響している。

思春期の危機、発達課題の「勤勉性」：劣等感と戦う→能力を得る、「アイデンティティ」：今まで創りあげた自分を壊し、新たに作り直す→自分が何者かわかる、親からの分離失敗（特に母親）、社会への不安と過剰適応（女子と一緒にトイレに行く）、両価性（ほっといてほしいがかまってほしい）、以上のことが積み重なっていく。

きっかけは、人間関係の課題、失敗体験等。

不登校の7つのタイプ、母子分離不安型、情緒混乱型（いい子ちゃん）、混合型（甘え依存型、ちょっとズルする）、無気力型、人間関係型（離婚、引っ越し）、ストレスによる神経症を伴う型、発達障害・精神障害を伴う型。

欲求不満、生理的欲求と安全欲求が満たされていないから不登校になる。社会的欲求に届いていない。学校に行こうと思わない。生理的欲求・安全欲求の二つが満たされた上で、部活動などで認められると結果を求めて自己実現に向けて生き生きと活動するようになる。

学校の課題として、人権等に配慮してなかなか根本的な問題に踏み込めないかもしれないが、SCがその橋渡しを担う業務を担当できる。担任へのフィードバックから一歩進んでコンサルテーションまで実施してほしい。

学校を卒業すると不登校から「引きこもり」となる。大人となって、依存（薬物・ギャンブル等）が大きな要素となる。学校に登校できるようにするだけなら、あの手この手を使って半年で登校させることは可能である。しかし、チックなど身体的症状が出ることもあり、根本の問題は解決しない。

不登校の支援。不登校の子どもたちの気持ちを考えてみよう。不安、孤独（外国籍）、罪悪感（休日はイキイキ、家族に）、不信（あなただから話したのに）、焦り（原因探し、きっかけ）、怒り（なんでわかってくれないんだ）、無気力、絶望（死を考える）など。

不登校にどのように関わるか？子どもたちの気持ちを考える。本人の気持ちを乗り越えて、どこに繋げるか、とかに行き着いてしまうのはマイナス。

不登校の家族の気持ちは？嫉妬、困惑、後悔などが加わる。なんとかしてもらいたい、具体的なアドバイス、話を聞いてもらいたい（相談された者の自分の話になってしまうのはダメ・助言はいらぬ・結論もいらぬ、とにかく聞いてもらいたい）、放っておいてほしい、信用できる専門家を知りたい。

第三者の私たちに出来ること。理解する、話を聞かせてもらう、共通言語を学ぶ、つながりを保つ、可能な限り協力する、専門機関につなげる。

<会長>

それでは、前回から引き続き、「学校運営や生徒を取り巻く現状、課題についての協議」に移ります。委員の皆様から議題はありますか。

<斉藤委員>

地域のトンネル内の壁面の落書き防止策として、美術部に壁画を依頼している。そのような活動をもっと広げていきたい。たとえば、紙飛行機の大会に理科部の協力でデモンストレーションや指導をお願いできないか。とにかく、中学生が地域で活躍する場を増やしたい。事業の予算は教育総務課と相談中であるが、三者連携や青少協の活動としてではなく、学校運営協議会の企画として地域が運営する形で進めていきたい。学校としては、生徒の参加について紹介していただけるか。

<校長>

学校としては、生徒の参加については、地域の様々な活動に協力していきたい。ぜひ話を進めていただき実現させてほしい。

<人見委員>

美術部だけの活動ではなく、地域の人を巻き込んで活動した方が、学校運営協議会としての取り組みとしてよいのではないか。

<会長>

学校運営協議会としてぜひ取り上げて、次回第5回の会議で協議したいと思います

続いて議題の(3)学校評価アンケートの評価項目および調査方法について、事務局より説明をお願いします。

<事務局>

質問項目の内容を昨年通りとし、調査方法については保護者のみ例年通り紙の調査書、生徒および教職員はGoogleFormsを活用したデジタルによる調査方法について、承認いただきたい。

<委員一同>

異議なし。

<会長>

過去3回の協議会で様々な話題が上がっており、学校で抱える問題は多岐にわたりますが、次回の第5回では今年度の内容を整理して、「来年度の学校運営方針」について話し合っていきたいと思います。

次回開催日程 2023年 2月27日(月) 10時～  
場所 善行中学校 会議室